



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第51巻第
4号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第51巻第4号). 泌尿器科紀要 2005, 51(4): 304-304

ISSUE DATE:

2005-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113581>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

今春の日本泌尿器科学会総会において「泌尿器科研究者をどのように育てるか：若手泌尿器科医に研究は必要か」というシンポジウムで発表させていただくことになっている（この号が発刊される時はすでに発表後だと思えます）。このような話題がトピックになるのには、医療が高度化し、臨床医に求められる専門技術、専門知識が高度なものになっていることが大きく影響している。また、卒後臨床研修必修化が始まり、専門医教育をどのような形で展開すべきかを真剣に考える時期にあることも一因である。

シンポジウムでの資料とするために、我々の教室に在籍したことのある泌尿器科医のこれまでの研究や臨床面での業績を、研究歴別（過程博士取得者、論文博士取得者、それ以外）で解析してみた。予想通りではあるが、論文博士取得者は邦文臨床論文、過程博士取得者は英文基礎論文の執筆頻度が高い（症例報告においては差がありませんでした）。興味深かったことは、論文博士取得者においては、アカデミックポジションや各病院の部長職に就任している率が過程博士取得者よりも高いことであった。これまでの学位がもってきた意義や意図的な人員配置の影響も考え合わせる必要があるが、バランスの良い泌尿器科医育成における臨床研究の重要性を示すデータかもしれない。

難解な基礎的研究を理解し遂行する能力と優れた臨床能力、特に体腔鏡下手術に代表される外科的能力の両方をひとりの泌尿器科医の中に求めることは極めて困難な時代になってきた。研究的思考無くしては優れた泌尿器科医の育成は出来ないと確信しているが、研究と臨床のバランスは、個人レベルのみならず大学レベルでも整える必要がある。金太郎飴のような同じ専門医教育システムではなく、特色のあるプログラムを施設毎に考えていく必要があると思われる。その総和が日本全体の泌尿器科医教育としてバランスのとれたものとなれば良いのである。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第51巻 第4号 2005年4月25日 印刷 2005年4月30日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190
<http://www.kiyu.jp/>

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
